



神奈川県立

高P連会報

事務局 横浜市神奈川区神之木台22番14号
県青少年課神之木台分館内
TEL 045-432-5889
FAX 045-432-5891
E-mail kana.koupren@kanagawa-koupren.org
編集・発行 神奈川県立高等学校PTA連合会
広報委員会

第45回 高P連県大会

親が変われば子が変わる — 教育の原点は、親と家庭にある。 —

2007.11.26(月)
パシフィコ横浜

情報交換と研究協議を深めるとともに、社会情勢の変化、特に本県における諸問題に対応する今後の活動の方向性を探求することを目的として、11月26日、千名余の会員の参加を得て、パシフィコ横浜会議センターで開催しました。

表彰式では、県高P連で役員及び理事としてご尽力いただいた方々に県教育長、県高P連会長から感謝状が贈呈されました。

講演は、鳥取大学大学院医学系研究科教授の藤井輝明先生から「今を生きる」と題してお話しいただきました。

藤井先生は、2歳の頃から、右頬に海綿状血管腫が現れ、幼少期から「いじめ」にあわれました。しかしながら、両親の深い愛情、理解ある教師や友人たちに出会ったことから「患者の心の痛みがわかる医療者」を志ざされました。

大会は、県高P連活動に貢献された関係者に対する表彰、講演及び各地区大会から選ばれた3校のPTAによる発表の3部からなっています。

開会のことばの後、主催者として佐々木一人会長からのあいさつ、来賓として、



県教育委員 長・引地 孝一様、
校長会長 代行・村田彰夫様、
代長・村田彰夫様、
振興会理事 井智定様、
安全振興会理事 櫻井智定様

から、それぞれ昨今の諸情勢を交えてごあいさつをいただきました。

生徒・PTA会員・学校が一体となって活動している様子が報告されました。

「進路指導とPTA」を親子で学ぶキヤリア教育」と題して、生徒だけでなく、保護者も一体となつてのキャリア教育の実践の報告がありました。

「美しい高浜」生徒の自立意識を求めて」と題して、生徒達の声を聴き、トイレのリフォームに立ち上がったPTAの活動が報告されました。



「人は多くの人に支えられて生きています。」先生の締めくくりの言葉が印象的でした。

◆特色ある活動
午後5時の発表。
▼保土ヶ谷高校PTA
「まなびと交流」と題して「国際理解」と題し「地域貢献活動」を中心に、



これからの発表に対して、会場の参加者からの質問を受けた後、校長会高P連担当理事の鎌倉高校金子校長、水取沢高校大森校長及び秦野高校岩本校長からご助言をいただきました。

会長のつぶやき

神奈川県立高P連会長 佐々木一人

この5年

最初に県立高校PTAの皆様方にお願いと御礼を申し上げます。今年度、一昨年から懸念事項でありました県立高校の空調設備設置についての要望書を県教委に提出させていただきました。しかし、まだスタートラインに立ったばかりです。今後も県教委や校長会と継続して協議してまいりますので引き続きご理解ご協力をお願いします。

また、新潟中越沖地震に際しましては皆様の温かいご支援により多くの義援金が集まり、柏崎市の高校6校に備品・補修等に役立てていただきました。新潟県高P連の木会長はじめ単Pの会長から御礼と感謝のお手紙やメールが届いています。有難うございました。

子ども達のために、より良い教育環境を！
そして、親学も大事！

県教委・校長会・連合会理事役員のお力添えを賜り仲間と過ごしながら、試行錯誤の5年間でした。そして、楽しくエンジョイ出来た。そして、A・I・I・学校・I・I仲間達でした。心より感謝いたします。これからは、モンスタースタイル対策など親学にも力を入れながら子ども達の教育環境教育現場を守るPTA・高P連を一致団結目指して行きたいと思っております。

(広報・一)

交通安全功労者（団体） 神奈川県知事賞受賞！

平成19年
11月22日（木）、本連合会は交通安全功労者（団体）として神奈川県知事賞を受賞いたしました。

当連合会の交通安全運動の展開は、昭和44年度県大会の「交通安全・事故防止対策について」で、取り上げられたことが最初です。多発する生徒の二輪車事故が問題となり、昭和55年以降「4+1ない運動」に発展しました。平成2年からは「かながわ新運動」へと転換し、高P連の活動方針・重点目標の一つに「生命尊重の理念に立った交通安全教育運動の一層の推進」を掲げ、高校教育を支援するPTA活動として交通安全運動に取り組み、成果を挙げています。

表彰を喜ぶ高P連役員

気象台

「食」を考えよう

最近、子ども達の肥満や生活習慣の問題が指摘されていますが、家庭からも食を考えなければなりません。

「和食は健康にいい。」
「日本食を見直そう。」
こんなフレーズを新聞や雑誌、テレビなどで見聞きする機会が多くなりました。先ごろ、この常識を科学的に裏付ける実験結果が発表されました。

東北大学の宮澤陽夫教授のグループは特にコレステロールや脂肪に注目し日本食が健康に役立つことを科学的に立証しました。

実験ではラットを60年代の日本食、現代の日本食、そして、欧米食の3つのグループに分け、凍結乾燥して粉砕した粉食をそれぞれ8匹ずつのラットに3週間与えました。

その後ラットの肝臓にどのような変化が現れるかを遺伝子レベルで調べました。

その結果、日本食は脂質の代謝を促し、生活習慣病を防ぐのに理想的な食事であることが、証明されたということです。

いわゆる「粗食」の方が、体にいいということなのかと思えます。

今日の食事は、どう？

(広報・一)

第31回
平成19年度

PTA 広報 紙 コンクール

最優秀賞は！ 大船高校PTA！

今年度は、ちょうど百校の応募があり、年々参加校も増えていっています。広報紙に対する、熱い思いが伝わってきます。また、今回は、表彰式の方法も昨年度とは変えて行いました。各校のドキドキ感が伝わってくるようでした。



大船高校「青船」表紙

平成20年1月21日午後2時より、横浜・県民センター2階ホールにて平成19年度第31回広報紙コンクール表彰式・講演会が開催されました。

1月10日に、高P連佐々木会長、県教委・校長会・安全振興会として神奈川県新聞社・岡部様を審査委員長に厳正な審査の下、応募総数百校の中から、金賞4校、銀賞4校、銅賞7校、特別賞安全振興会賞1校の16校が選出されました。

昨年度までは、事前に各賞は、受賞高校に連絡済みでしたが、今年度は、ノミネートされた高校のみに連絡をし、各賞の発表は、会場に来てから初めてわかるという方法をとりました。各高校、ドキドキ・ハラハラ感が楽しめたのでは、と思

つております。金賞4校中、大船高校PTA「青船」が、最優秀賞に輝きました。



前列:金賞の皆さん(右より二人目が大船高校さん) 中列:銀賞の皆さんと特別賞(一番左) 後列:銅賞の皆さん

来年度も、今年度以上の多数の応募をお待ちします。表彰式後、「広報は人と人を結ぶ接着材 コンクール応募紙の実例からPTA広報の基本を学ぶ」と題し、昨年同様、新聞教育研究所所長・大内文一氏より各校の広報紙を題材にし、講演がありました。充実した内容で、90分の講演もあつて、うまに終了時間になってしまいました。

それでも一人一人が自分出来ることを見つけて参加し、大きな力になりました。生徒たちや先生方の活動取組みの真摯さやパワーに思わず取材することを忘れて熱く感動したこともあり、報われます。

最後に(財)神奈川県立高等学校安全振興会文コンクール 特選作品の県立神奈川総合高校・飯田千咲さんの思いこみ、「県立大磯高校 坪井千明さんの「祖父の介護を通して考えたこと」の2作品(詳細は当会報4面を、本人による朗読で、会場いつばいの拍手をもって、午後5時閉会しました。

審査講評

審査委員長
神奈川新聞社
岡部 伸康 様



県内各地で選ばれた百校の広報紙は、それぞれに個性豊かで、意気込みに圧倒されました。

県教育長賞の「青船」は2年ぶり9度目の最優秀となりますが、脱帽の内容でした。まず、多角的な構成で進路問題を考えた5ページ特集を冒頭に置き、さらに企画が3本続いています。アイデア、取材力、見せる技術のどれも素晴らしい出来栄でした。

金賞の「光陵だより」は冒頭の「中・高・大連携」特集が読ませました。「広報元石川」は特別賞にも選ばれたように、表紙から見える工夫がなされていました。「UMIKAZE」は今風のデザインで、テーマに沿った特集も読みやすくまとめたと思います。まず楽しむことを第一に、今後も素晴らしい広報紙作りを続けてください。

ル応募の際、各校から提出して頂いたアンケートでは、①仕事を持った委員が多い事もあり、全員が揃う事は有りませんでした。

お知ろせ・神奈川県教育委員会からのお知らせ・神奈川県教育委員会からのお知らせ・神奈川県教育委員会からのお知らせ・神奈川県教育委員会からのお知らせ・神奈川県教育委員会からのお知らせ

表彰校一覧	
金賞	最優秀賞 県教育委員会教育長賞 大船高等学校PTA 神奈川新聞社賞 三浦臨海高等学校PTA 県立高等学校長会賞 光陵高等学校PTA 県立高等学校PTA連合会賞 元石川高等学校PTA
	銀賞 神奈川新聞社賞 鶴嶺高等学校PTA 県立高等学校長会賞 吉田島農林高等学校PTA (財)県立高等学校安全振興会賞 小田原高等学校PTA 県立高等学校PTA連合会賞 上溝南高等学校PTA
	銅賞 県立高等学校PTA連合会賞 多摩高等学校PTA 神奈川総合高等学校PTA 海老名高等学校PTA 市ヶ尾高等学校PTA 横浜桜陽高等学校PTA 七里ガ浜高等学校PTA 有馬高等学校PTA
特別賞	(財)県立高等学校安全振興会賞 元石川高等学校PTA

お知らせ・神奈川県教育委員会からのお知らせ・神奈川県教育委員会からのお知らせ・神奈川県教育委員会からのお知らせ・神奈川県教育委員会からのお知らせ

学力向上推進及び特色ある県立高校づくり推進について

全ての県立高校で「特色ある高校づくり」を推進しています。国際化、情報化など社会の急速な変化に対応した教育の展開や確かな学力の向上への取組を一層推進するため、平成19年4月からは次のように新たな枠組みを設けて展開しています。

①確かな学力向上の取組(学力向上進学重点、授業改善実践研究、読解力向上実践研究など)②「協働」による教育活動の展開(小中学校やNPOとの連携教育など)③これからの社会に対応する特色ある教育(国際・英語教育、環境・エネルギー教育など)

この3つの柱に基づき、県立高校を75校指定し、先進的な取組を進めているほか、多様な教育の提供や個に応じた学習指導の充実、総合的な学習の時間の充実など、各校の特色づくりを一層充実するための拠点校も指定しています。こうした取組により、生徒一人ひとりの個性が生きる教育、豊かな人間性や社会性を育む教育の一層の充実に取り組んでいます。

詳しくは、県のホームページ(高校教育)をご覧ください。
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokokyoiku/kenritu/tokusyoku/menu.htm>

●問い合わせ/高校教育課 電話045(210)8254

「かながわ教育ビジョン」を策定しました

平成19年8月に、本県教育の総合的な指針となる「かながわ教育ビジョン」を策定しました。

教育ビジョンでは、教育にかかわる多くの方々との協働・連携による、生涯を通じた人づくりを重要な柱とし、人々や社会と深くかかわり「思いやりとたくましさ」をもった人へと成長できるよう、「心ふれあう しなやかな人づくり」を提唱しています。

詳しくは、県のホームページ、または、県教育政策課まで。
http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/ed_seisaku/forum/annai.htm

かながわ人づくり 演劇ワークショップ 参加者募集!

子どもとかかわり方やこれからの人づくりを考える演劇体験ワークショップを開催します。

日時/3月20日(祝)13時30分~16時30分
場所/鎌倉女子大学(大船キャンパス)
対象/県内在住・在学の児童・生徒の保護者、県内在勤の教員、地域で子どもの育成・指導に携わっている方80名(応募者多数の場合は抽選)
申込み/往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記し、3月4日(消印有効)までに県教育政策課へ

●問い合わせ/教育政策課 電話045(210)8081

●問い合わせ/子ども教育支援課 児童生徒指導室 電話045(210)8295

今春、新しいタイプの県立高校8校が開校

県立高校改革推進計画後期実施計画に基づき、平成20年4月に次の8校が開校します。

【横浜緑園総合高校(横浜市泉区)】地域社会との連携や体験的な学習を積極的に展開
【秦野総合高校(全日制・定時制)(秦野市)】[全日制]地域社会との連携・交流や体験学習を生かした人材育成 [定時制]地域社会との連携・交流と基礎学力の定着
【小田原総合ビジネス高校(小田原市)】多様な進路希望に対応し、自己学習力を育む教育展開
【横浜国際高校(横浜市南区)】国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力・IT活用能力を育成
【海洋科学高校(横須賀市)】航海実習などの体験学習を通して海洋を幅広く学ぶ
【横須賀光明高校(横須賀市)】2つの専門性の高い教育内容を連携させた新しい専門高校
【弥栄高校(相模原市)】4つの専門性の高い教育内容を連携させた新しい専門高校
【横浜修悠館高校(横浜市泉区)】一人ひとりの学びとキャリアプランニングを幅広く支援

県立高校改革に関する取組については、県のホームページをご覧ください。
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokokyoiku/kenritu/syorai/syorai/menu.htm>

●問い合わせ/高校教育企画室 電話045(210)8090

高校生ボランティアセンター 新規スタッフ募集

平成18年度より生涯学習情報センター内に高校生ボランティアセンターを設置し、高校生のボランティア活動の支援を進めています。

平成19年度は、県内の高校から応募したスタッフ55名が、青少年・福祉・環境・国際の4分野のグループに分かれています。高校生が参加する企画をそれぞれ実施することにより、多くの高校生が参加しました。

高校生ボランティアセンターでは

■平成19年度 高校生ボランティア活動報告会の参加者募集 (日時:3/16(日)13:00~15:30 会場:かながわ県民センター5階 申込締切:2/29)

■平成20年度 新規スタッフ募集 (募集人数:継続スタッフ含め60名程度 応募締切:4/30)を行います。

詳しくはホームページをご覧ください。各学校へ送付する募集案内をご覧ください。

高校生ボランティアセンターホームページ
http://www.planet.pref.kanagawa.jp/k_vol/k_vol_top.htm

●問い合わせ/県生涯学習情報センター 電話045(312)1121 内線2506

高P連のホームページをもっと活用しよう！

ホームページをもっと活用してください。私達、広報委員会は、会員の皆様のご意見をもっとも聞きたいと思います。一度下記アドレスに接続してください。お問い合わせボックスもあります。悩み、相談、一緒に考えましょう！私達も、最低でも月一回の更新ができるよう、頑張っています。



<http://www.kanagawa-koupren.org/>

義援金へのご協力、有り難うございます。
1,257,735円の協力がありました

平成19年7月16日に発生した震度六強の新潟県中越沖地震の震災に対し、神奈川立高P連会より各校単位P連の協力を、義援金として(金百二十五万七千七百三十五円)を12月中旬に送ることが出来ました。その御礼として、新潟県高等学校P連連合会会長青木秀伸様より代表として御礼文を頂戴いたしましたのでご紹介いたします。

「平成十九年七月六日に発生した……(中略)……高等学校では、三十二校でガラス割れ、渡り廊下にビビ、段差、校舎つなぎ目にビビなどの施設被害がありました。また、四校が避難所となるなど夏休みに入るまで臨時休校した学校が六校ありました。一方、住宅が全壊・半壊した生徒は二百十人を超えています。貴県立高等学校P連連合会からいただきましたお見舞金は、被災地柏崎地区の単位P連六校で活用させていただきます。今回のご厚意につきましては、本県高等学校P連連合会の全会員にお伝えいたします。

ここに謹んで御礼申し上げます。」

問題を先送りしない。あきらめない！



晴れた日には富士山が見えます

大会、関東大会、さらには、かながわ人づくりフォーラムでの実践報告の「地域による家庭教育支援の取組みに関する事例集」の原稿依頼など、反響が続いています。その発表は、16年度のPTAの大改革が主でしたが、14年度以降の学



南棟と北棟の間の中庭です

校主体の大改革に追随出来た成果です。さて、今は17年度以降の良くなった神田高校を選んだ生徒が通っています。問題がないわけではないが荒れているわけではない、といった普通の高校です。

PTA活動も8月以外は毎月、あいさつ新運動合同委員会開催を続けることで、直接生徒と関わり、問題を先送りにしない体制が出来ています。学校側もさらに良くといったあきらめない指導を続けていきます。

学校と保護者が信頼し合い生徒を心配しながら、21年度の再編統合後も誇りを持って活動していけるように少し先を見据えながら、今を大切に活動しています。

関東大会で発表された、県立神田高校PTAさんです。

神田高校は今…！

平成18年9月の中地区大会に向けて、プロジェクトチームを立ち上げたのが、その年の2月でした。「他校は神田高校の何を知らたいのかを中心に話し合いを重ねました。その結果、PTA活動や保護者として真剣に取り組んでいる方々の共感を得、高い評価を受けることになりました。中地区大会から県

地区大会

10月8日の横浜中地区大会をかわきりに、県下10地区において、地区大会が開催されました。

各地区とも講演と研究発表という形式であり、講演では、企業経営者による「求められる高校生像」や、「ケータイ・ネット使用上の問題」や「子どもたちが抱える心の問題」など保護者の興味・関心を引くものから、「ダイエットについて」など幅広いテーマで大変勉強になりました。

研究発表では、それぞれの学校の特徴ある活動が、いきいきと発表され、映像もすばらしく、時間をかけて準備をした成果が感じられる内容でした。

各地区会員の今後の活動に大いに役立つものと思います。

各地区理事校、及び発表校の皆様にご心より感謝申し上げます。

(研修・K)



横浜中地区大会発表風景

安全振興会と保険業法 (県議会を傍聴して)

12月7日、県議会本会議での小島議員の質問と引地県教育長の答弁を傍聴し、問題の重大さを再認識した。

また、1月7日、県教委も国に保険業法適用除外の要望書を提出したとのことである。消費者保護といながら、なぜこのような制度をなくさなければならぬのか、誰のための法改正なのか。将来ある高校生のために、私たちもできることからやっていかなければならないと思った。

(安全振興会・H)

交通安全大会

本年度も県下10地区に於いて、交通安全大会が開かれました。昨年より交通安全大会とPTA交通安全大会の同時開催を通じ、活動の活性化を推進して参りました結果、今年度は7地区で合同開催が実施できました。関係各位のご尽力に対し感謝申し上げます。

内容としましては、今年度の道路交通法改正による歩行者に対する罰則などのタイムリーな発表やクイズなども多く盛り込まれ、地域・学校生活を中心に交通安全を再認識できる良

い発表の場と成りました。

また、合同開催により子どもたちと安全に対する意識と問題点を共有できたことが成果であります。各地区ともに今年度目標に掲げた、「生命尊重の理念に立った安全教育運動の推進」「かながわ新運動の一層の推進」「自転車事故防止運動の展開」に沿った素晴らしい大会であり、今年度は、2月17日(日)に横浜市教育会館で実施される、健全育成大会にて厚木東高校と相模原総合高校が発表いたします。

大いにご期待ください。

(健全育成・K)

県下7地区で合同開催！
高校生とPTAが協力しあい、活性化はかる！



横浜南地区交通安全大会風景

編集後記

●小学生の壁新聞以来何十年ぶりに記事を書きました。広報委員さんの苦勞が身にしみて分かりました。各校の広報委員さんへお礼です。(岸)

●みんなと楽しく活動できたこと、それが何よりの宝物です。(山下)

●単位PTA各広報委員さんのご苦勞が、少しだけ経験でき良かったです。(渡邊)

●何も解らず戸惑う事ばかりでしたが、楽しい1年でした。(山下・潤)

●後半ラストスパートのマラソンの様でした。今は、ホッ(夏目)

●他、愛沼、武川、石井の8人で1年走ってきました。ありがとうございました。

